

# はるかな尾瀬

## —目次—

### 02 特集

尾瀬認定ガイド制度について

### 04 リレーエッセイ

尾瀬との出会い

### 06 エッセイ尾瀬好日

①尾瀬の調査で思ったこと

②逆縁に励まされて

### 08 現地情報

### 10 連載コラム

①南会津町の赤カブを召し上げ

②目標は長生き！80歳まで頑張ります

### 12 TOPIX

### 13 尾瀬ボランティア情報

### 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2009.11 vol.11  
(財)尾瀬保護財団



自然観察をする園児たち（研究見本園にて）

# 特集

## 尾瀬認定ガイド 制度について



### 制度創設までの経緯

尾瀬は、広大な湿原と長く敷かれた木道、至仏山や燧ヶ岳・会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山などの美しい山々、尾瀬特有の動植物など、美しい景観と貴重な自然を有しており、その貴重さから、尾瀬は「国立公園」および「国指定特別天然記念物」に指定されているほか、ラムサール条約湿地にも登録されています。また尾瀬はその美しい自然が、多くの人たちによってダムや道路などの開発から守られてきたことや、「ごみ持ち帰り運動」発祥の地でもあることから、「自然保護の原点」と言われ

ており、踏みつけ等によって傷ついた湿原を復元する作業も長い間続けられています。

このように、貴重な自然があり、その自然を守る活動が行われている尾瀬は、豊かな自然とふれあいながら自然や環境への理解を深め、それを引き継いでいくことの大切さを学ぶ場所として、素晴らしい条件を持っています。群馬県は県内の小中学生が一度は尾瀬を訪れて尾瀬のすばらしさや自然の大切さ、郷土愛を学ぶ場として「尾瀬学校」を昨年度から実施し、これまでに2万人近い児童・生徒が尾瀬を訪れています。



▲尾瀬学校の様子

入山者が尾瀬のすばらしさ、貴重さ、楽しさを十分に学ぶためには、尾瀬のことをよく

理解し、それを伝える役割を担う人が不可欠であり、それがガイドです。しかし、尾瀬の自然などの知識やガイドのための知識・技術などは、個々のガイドの経験などに依っていました。そのため、ガイドによってその差がかなりありました。このため、平成18年に策定された「尾瀬ビジョン」において、環境教育とエコツーリズムを推進するため、尾瀬にふさわしいガイドの資格認定（登録）制度の創設と、ガイド利用の促進に取り組んでいくこととなりました。これを受け、尾瀬の自然のすばらしさや貴重さ、自然を守ることの大切さなどを伝え、安全管理や行程管理がしっかりとできる優れたガイドを認定し、質の高い環境教育やエコツアーを実施できるよう、平成20年5月に、ガイドや関係県、市町村、自然保護団体などが集まって「尾瀬認定ガイド協議会」が設立されました。

### 尾瀬認定ガイド制度の概要

尾瀬認定ガイド協議会は、尾瀬国立公園で高いガイド技術と正確な救急法を備え、尾瀬と周辺地域の魅力を解説できる知識と能力を持ち、自然保護の原点ともいえる尾瀬において自然保護の精神や環境保全、適正利用への理解の向上と啓発を行うことができるガイドを認定することを目的としており、認定した



ガイドにより、尾瀬において安全で快適な質の高い自然体験が提供されることを目標としています。

協議会が認定するガイドの種類は「尾瀬自然ガイド」と「尾瀬登山ガイド」の2種類です。「尾瀬自然ガイド」は、尾瀬国立公園のうち至仏山や燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山などの山岳地域と、残雪期の赤田代〜三条ノ滝〜御池の区間、および尾瀬沼南岸の区間を除く地域が対象区域となります。

「尾瀬登山ガイド」は、「尾瀬自然ガイド」の認定者のうちから登山や残雪期のガイド知識・技術を持つ人を認定します。「尾瀬登山ガイド」の認定を受けたガイドは、尾瀬自然ガイドが対象としていない区間を含め、尾瀬国立公園全域をガイドすることができます。「尾瀬自然ガイド」「尾瀬登山ガイド」ともに、認定ガイドとして活動できるのは、毎年、道路開通日から道路閉鎖日までの期間としています。

また、認定の期間は3年間とし、認定更新の際に研修を行い、技術と知識の研鑽を行います。この認定制度により、尾瀬で活躍するガイドの知識と技術が向上することが期待されます。なお、認定を受けられないガイドでも、これまでと同様尾瀬においてガイドすることができます。

## 今年134名が尾瀬自然ガイドとして認定されました

それぞれのガイドの認定については、協議会が定める基準を満たした者が、協議会が実施する検定（座学および実地）を受検し合格した方を認定します。ただし、平成22年度までの間は制度導入期間として、現在尾瀬で有料ガイドとして活動されている方を対象に、「座学講習」と「実地講習」をともに修了した方を認定します。

「尾瀬自然ガイド」については、平成21年3月に群馬県と福島県の会場で「座学講習」を実施し、6月から9月にかけて、尾瀬においてガイドを行う「実地講習」を実施しました。実地講習では、ザックなどを使い動けなくなった人を搬送する方法や生活テーピングの仕方などの講習も行いました。

11月に開催された同協議会の理事会において、両講習を修了した方を認定することを決定し、134名が尾瀬自然ガイドとして認定されました。今後の予定としては、「尾瀬自然ガイド」は引き続き現在尾瀬で有料ガイドをしている方を対象に、平成22年3月に座学講習を、6月から9月にかけて実地講習を実施して両講習の修了者を認定し、平成23年度以降は、ガイドとして活動されている人以外にも門戸を広げ、検定による認定を実施する予

定です。また「尾瀬登山ガイド」については、平成22年度以降、認定を行うよう作業を進めているところです。



▲実地講習のようす

## これからの活動

今後は、研修などにより、認定されたガイドの知識や技術のレベルアップを行っていきます。また、認定ガイドを利用してもらう機会を広げるため、旅行会社や出版社などへのPRを行うほか、各自治体や観光協会などにもご協力いただきながら認定ガイドの認知度の向上に努めていきたいと思えます。

# リレーエッセイ

「尾瀬との出会い」

木村 吉幸

私が初めて尾瀬の湿原を歩いたのは、今から四〇数年前の高校生の時である。福島から列車で田島まで行き、バスで駒止峠を越えて檜枝岐に向かった。テントを背負って七人を出発し、尾瀬沼畔のキャンプ場を目指した。軟弱な身体には七人からの登りがきつくて、沼山峠が本当に遠かった。兄が見かねて、私のリュックからかなりの荷物を取り出し、登山道の脇に隠した。キャンプ場に着いたのは暗くなってからで、その日はひたすら眠った。翌日、沼山峠に引き返し、前日の荷物をテントまで運んだのであろうが、尾瀬でのキャンプのことは、あまりよく覚えていない。

尾瀬沼に浮かぶ連絡船とボート（写真①）、など、当時の写真がわずかに残っていて、記憶の断片が蘇る。当時はニッコウキスゲが咲き乱れ、湿原はもつと湿っていて、木道も単線のところがあったような気がする。不確かな記憶の中で、燧ヶ岳山頂付近で見たトウヤ

クリンドウだけ鮮明に覚えている。歩くのに精一杯であったが、淡黄色の花の印象がよほど強烈だったのだろう。やっと山頂かと思うと先にまた山頂が現れ、至仏山には何度だまされたことか。食糧からすると、一週間くらい尾瀬を歩いていたようである。



写真① 尾瀬沼に浮かぶ連絡船とボート  
昭和39年（1964）7月

その後、福島県尾瀬保護指導委員で恩師でもある故蜂谷剛教授のお手伝いや、尾瀬保護指導委員として、これだけ尾瀬にかかわることになるうとは、当時は予想もしなかった。福島県の『尾瀬の保護と復元』Ⅳ（一九七三）のアブラムシの調査に始まって、ニホンジカの調査をしている現在も尾瀬とのかかわりは続いている。

尾瀬に生息する小哺乳類の調査では、尾瀬地域のネズミ・モグラ・コウモリ類の生息状況を、種々の雑誌に発表し、『小さな哺乳類』にまとめてある。いるはずのないドブネズミにキャンプ場で遭遇して驚いたが、ゴミ捨て場が改善されて事なきを得た。尾瀬地域にも生息しているピロードネズミ属のヤチネズミとスミスネズミ（カゲネズミとも呼ばれていた）に関しては、ある地域では、標高の高い方に前者、低い方に後者が生息している。檜枝岐村から、登山道沿いに御池、広沢田代、燧ヶ岳山頂にかけての北側の調査結果によると、この境界が当時は標高一一五〇m付近にあった。一方、燧ヶ岳の南側では標高一七〇〇m付近でこれら両種が混在していた。実は両種の分布を決める要因はまだよく判っていない（哺乳類科学、三九巻二号、一九九九）。

平成七年に、下田代の丈堀北沢付近に、突然スコップで掘ったような掘り起こしが出現し（写真②）、内藤俊彦先生（当時東北大学）と初めてニホンジカによる植生攪乱を報告した。この時はニホンジカを確認できず、尾瀬でニホンジカの姿を初めて記録したのが、長池湿原でのセンサーカメラ調査になる（写真③）。また、「公益信託今井記念尾瀬・日光自然保護基金」の助成を受けた平成一六・一七

年の調査では、二mほど残雪のある皿伏山南斜面でニホンジカの列を確認した(写真④)。



写真② ニホンジカによる掘り起こし  
平成7年(1995)8月 文堀北沢付近  
尾瀬の保護と復元, 第22号(1996)



写真③ 長池湿原で撮影されたニホンジカ  
平成12年10月30日 16時22分  
福島生物, No.44(2001)



写真④ 皿伏山南斜面で撮影されたニホンジカの列  
平成17年5月19日 14時35分  
尾瀬の保護と復元, 第27号(2006)

尾瀬国立公園は、会津駒ヶ岳地域と田代山・帝釈山地域を編入して、平成一九年八月に分離・単独化した。これらの編入地域でもセンサーカメラを使用して、ニホンジカの撮影を試みた。その結果、帝釈山では、編入前の平成一六年九月と一〇月に、馬坂峠登山道標高一八五〇m付近で、角が四尖(四歳くらい)のオスを(福島生物、五二号、二〇〇九)、また編入後の平成二〇年一〇月に、会津駒ヶ岳の滝沢口登山道標高一四八〇m付近で、一尖(写真⑤)と四尖のオスを撮影した。



写真⑤ 会津駒ヶ岳標高1480mで撮影されたニホンジカ  
平成20年10月2日 17時31分  
福島生物, No.52(2009)

尾瀬の湿原でニホンジカを確認してから四年を経過するが、攪乱地は増加の傾向にあり、尾瀬とニホンジカの難しい関係は、これからも続くであろう。

#### 筆者紹介

木村吉幸(きむら よしゆき)

福島大学人間発達文化学類教授

専門は動物生態学

著書に『小さな哺乳類』(歴史春秋社)



## 「尾瀬の調査で思ったこと」

尾瀬は動植物の宝庫である。世界中で失われて行く生物種が多い中で、色々な分類群に多くの種を保全しているとみられる。それだけ尾瀬には自然が残されているといえる。

私が尾瀬で水域を中心に調査を始めたのは昭和四十三年（一九六八年）からである。この当時は入山人口増加に伴い踏みつけやゴミ放置で湿原の裸地化やゴミの散乱がひどかった。そして、ご存知のヤマメ平湿原の荒廃が起こってしまった。

危惧されて、当時湿原池塘の水質やプランクトンを調べていたが、水質も生物も昔の記録と大きな違いは見出せなかった。尾瀬の水域は人為的影響を受けにくいのか、と思われた。

その後、同じく群馬県の尾瀬保護専門委員の峰村宏さんと調査を共にしてきた。昭和四十七年から三年間、峰村宏さんと尾瀬沼の湖沼学的調査をした。湖には処理不完全な排水が入っていて、排水流入箇所は明らかに汚れが目立っていたが、水質分析で見える限り排水影響は湖全体に及んでいないとは見えなかつ

た。ところが、プランクトンや底生動物から見ると富栄養湖沼性の種が多く見られ、湖の富栄養化が認められた。排水影響は、水質の変化よりも生物の変化に先に現われるものだった。生物調査の重要性を思った。その後尾瀬沼の排水処理は改善された。

昭和五十二年から山ノ鼻流水の排水影響を調べた。排水影響は水質にも動物にも現われた。この調査では、排水流入より上流の地点では清水性のユスリカが、流入下の地点では汚水性のユスリカが別れて生息したが、やがて餌と酸素の供給が好条件になることによつて、清水性の種が、汚水域首部まで住み着くようになった。

似た現象は、川上川の底生動物でも湿原池塘のプランクトン性藻類でもみられた。川上川では排水流入下で栄養塩の増加による餌条件の好転によつて現存する底生動物の個体数増加をみた。湿原池塘においては、排水を受けた池塘で清水性指標となるデスミッド類（緑藻類）の種数も個体数もかえって増加していた。栄養条件の好転によるものだ。生物は環境の微妙な変化に反応する。

保全事業が進んで、尾瀬の自然はよく保たれている。しかし、尾瀬には壊れやすい脆弱な部分もある。人為影響を最小限にして、生物の豊かな尾瀬をみんなの力で守ってあげたいと思つている。



▲猫又川の調査をする筆者  
(H21.9.24)



▲昭和42年8月の尾瀬沼

## 「逆縁に励まされて」

「ボク、2歳半。「ジュースをあげるよ」と誘われて、お父ちゃんの勝手に連れて来られて、今このデッキでおいしいジュースを飲んでるんだ。でも来てよかったと思ってるんだ。空は青いし眺めはいいし、空気もきれいだし、こんな景色を見るのは初めてなんだ。また来たいなあ。今日は半分くらいはお父ちゃんの背中に乗っていたけど今度来るときは全部自分の足で歩くよ。後ろに広がる湿原やあの山も、ボクが大きくなってもあるといいなあ。帰りにも少しお父ちゃんの背中に乗ったけど、ボクの背中に白いゴミ袋がぶら下がっていた。後で聞いたら、自分のゴミは自分で持って帰るんだよと言っていた。お父ちゃんも何気なく捨てていた「ゴミを今は罪滅ぼしにと捨てるようにしているんだって。」などと言うほど賢い息子ではなかったですが、27年前の長男の写真です。尾瀬沿ビクターセンター隣のテラスからで、今では樹木で見ることができない大江湿原がまだ見えています。」



▲尾瀬で飲む飲み物はおいしいなあ  
(昭和57年10月撮影)

私もゴミの持ち帰りは多分先輩たちから教えられていたとは思いますが、記憶にはありません。意識するようになったのは息子たちを連れて山に行くようになってからです。

この美しい尾瀬の自然を子供たちはもちろん、多くの人に見てもらうために、このままの自然な姿を残したい。それがボランティアになった動機です。

「ゴミ拾いで」「苦労さん」「ありがとございます」の声を掛けられると単純な私はやっぱりうれしくなるが、朝通ってきた木道の脇に新しいゴミが落ちていたりするとガッカリします。励ましの言葉も、数十人のボランティア

イヤと掛け合う声も気持ちいいけど、ゴミを捨てない一人の登山者に来てもらうことがもつとうれしい。  
初めて尾瀬を見てから今年でちょうど40年。それでも毎回違った姿と感動がある尾瀬に行く楽しみがボランティアに行けるエネルギーに。だからゴミ拾いや啓発等のついでに他のルートを散策して楽しんでいきます。また、ボク防止になればと思いい、八百種もあるという植物の名前を覚えようとするが三歩進んで二歩下がる日々で、まだ40種前後であと七百いくつ、うひゃーあ、百三十歳を越える！だめだコリャ。



▲アヤマ平でのゴミ拾い

現地情報

原をわたる風だより

山ノ鼻センターより

今期の生物季節

ビジターセンターでは生物季節の定点観察を行っています。

ヒツジグサは竜宮十字路付近、オゼコウホネは上ノ大堀付近、その他は研究見本園で観察しています。

花の開花は全体的に昨年よりも1週間ほど早かったようですが、定点観測場所ではほぼ昨年と同じ(ミスバシヨウ、ミネザクラを除く)時期でした。ミスバシヨウは昨年よりも18日、ミネザクラは9日早い開花でした。

ミスバシヨウ開花	5月10日
ミネザクラ開花	5月24日
カキツバタ開花	7月12日
サワギキョウ開花	7月31日
ニッコウキスゲ開花	7月10日
ヒツジグサ開花	7月14日
オゼコウホネ開花	6月28日
モリアオガエル産卵	6月6日
カッコウ初鳴	5月15日
ホトギス初鳴	6月2日
ウグイス初鳴	4月27日

H21年度生物季節観察定点調査記録

続・調べてみました!

前号のニッコウキスゲの花数調

査に続き、結実調査を行いました。

株数合計122本、花数合計464個のうち、実がついていたのは株数28本、花数38個。実がついた株は約23%、実の数は花数の約8%でした。

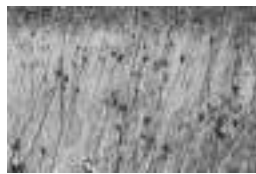
今年の見本園の調査地点は結実状況は良くないようです。7月の花期には雨が多く、チヨウによつて花粉が運ばれなかったからでしょうか。

牛首からヨツピ吊り橋間の下ノ大堀川沿いのニッコウキスゲの実は多くついているようです。場所によつても違いがあるようで、今後は他所とも比較をしてみたいと思います。

(秋山 恵美子・渡辺 純平)



ニッコウキスゲの実



下ノ大堀川沿いのニッコウキスゲ

今期の山ノ鼻の気象状況

ビジターセンターで毎日観測している気象のデータから、今期(4~10月)の気象の特徴を考えてみました。特に雨に注目すると、7月は降雨日数・量ともに多く、逆

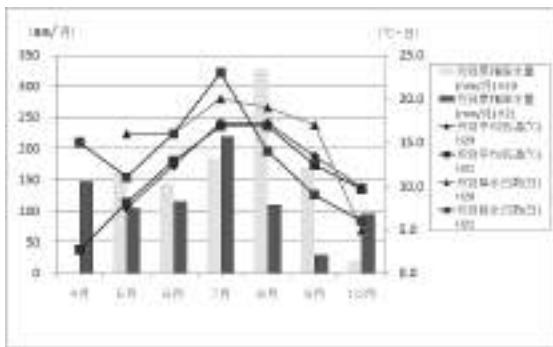
に9月は雨が非常に少なく、湿原が乾燥し池塘の水位が下がり分下がってしまいました。また、短時間に集中して大量の雨が降ることがなかったため、尾瀬ヶ原の木道が冠水するようなことはありませんでした。

今期はお花の当たり年でもありませんでしたが、春先の霜が少なく遅霜もなかったことが関係しているのでしょうか。

なお、今秋の初霜は9月17日、至仏山の初冠雪は10月11日でした。(内田真樹子)



水位が下がった池塘



山ノ鼻 4~10月の降水と気温に関するグラフ (H21、H20) (10/9現在)

環境学習の場としての尾瀬

昨年度から群馬県が実施している尾瀬学校をはじめ、尾瀬子どもサミット、東京電力が今年開校した自然学校など、現在尾瀬を舞台とした環境学習が盛んに行われています。そこでビジターセンターでは、尾瀬に学習で訪れる学校等に向けて「今朝の山ノ鼻」と題してその日の天候やルート情報を毎朝現地からインターネット発信しました。また一般の方向けの取り組みとして、研究見本園での自然観察に加え山ノ鼻地区の環境保全施設を見学するミニツアーを昨年より実施し、現地における環境学習の体制を整備しています。

今年尾瀬ヶ原では、湿原への踏み込みやゴミのポイ捨てなどのマナー違反が目立ちました。尾瀬における環境学習を通して、尾瀬だけでなく自然とふれ合う上でのマナーが広がることを願っています。

(石田 義則)



たくさんのご参加ありがとうございました。来シーズンもお待ちしております!!



# おごじよだより

尾瀬沼ビジターセンターより

尾瀬の沼から

2009

尾瀬沼の花 2009

今年の尾瀬沼は、全体的にどの種類の花もバランス良く咲きそろいました！

二ホンジカによる花芽や地下茎の食害が心配されていたミツガシワも見事に群生し、去年は遅霜の影響が大きかったニッコウキスゲも、大江湿原の三本カラマツ周辺一面に咲きました。

中でも私の一押しは、沼尻のキンコウカです！「金光花」と書く名前の通り、まさに湿原を黄金色に埋め尽くし、本当に綺麗でした。



草紅葉はシルバークウイクに合わせるようにピークを迎え、沢山のハイカーに喜んで頂けたようです。樹の紅葉は台風風の風で少し葉を落とすつつも、例年より少し早足気味に進みました。

どのシーズンも絶えず私達を楽しませてくれた尾瀬の自然に感謝の気持ちで一杯！そして来年も！という期待で胸一杯！の私です。

(越智 直美)

## 一番楽しかった仕事

今年、尾瀬沼ビジターセンターでは動物関連の展示を充実させました。実物大の足跡やシルエット、重さをはかる天秤、そしてウンチの模型です。中でも、自信作はウンチ。他のスタッフにも大好評(?)でした。

材料は紙粘土、これをいかにリアルに見せるかがポイントです。動物の毛の代わりに脱脂綿をちぎって混ぜたり、紙やすりの上を転がして細かい凹凸をつけたりしました。そして色塗り。今までに撮影したウンチの写真を参考に何度も塗り直しました。さらに、ニスの重ね塗りで見ずみずしさを演出、出したてホヤホヤの完成です！

我ながら満足な仕上がりに、コレを先輩の机に…。朝、枕元にウンチがあったら…。どんな顔するかなあ…。なんて言うのかなあ…。楽しい妄想が止まりません。

結局妄想にとどめましたが、レストランのショーウィンドウのようにお皿にのせて展示しました。ツキノワグマのウンチなんて、まるで大盛りカレーです。ノウサギのウンチは卵ボーロかな？  
尾瀬沼ビジターセンターのウンチ、一見の価値あります！



(佐藤 美幸)

## 尾瀬沼V.Cの食糧事情

— エンゲル係数高かった！—  
今年のV.Cスタッフはよく食べよく飲んだなあ！  
米の消費量昨年比160%(昨年1100kg、今年1800kg)だけでも驚きですが、男性陣は全員お酒大好きで、食費で買うのはビールだけ、あとは各自で荷上げしてました。休み明けの度に、重そうなザックを背負ってくる姿を見ながら「ホント、好きだなあ…」と感心するやらあきれれるやら。



食事の内容も本当にバラエティに富んでいて「えっ、この組み合わせあり？」と思うものでも(例えば餅入りがんもどきのトマト煮?)美味しく調理してくれたり、V.C恒例になった土曜のカレーの日に限られた材料を駆使して毎回おもしろカレーを作ってくれたり、質、量ともにすごかったです。

毎回15kg以上の食材を背負って来ても、1週間も持たない状況は過酷でしたが、おいしい顔と楽しい会話ができる食卓はなによりのごちそうでした。

今年も沢山の差し入れを持ってきて下さった皆さん、有難うございました。

(小山 抄)

## 突撃？隣のV.Cスタッフ

それぞれの思いを胸に、尾瀬沼での仕事を終えるスタッフ達に今の心境を聞いてみました。

質問①「下山後まず1番にやりたいた事は？」質問②「今シーズンの尾瀬、マイベスト風景は？」質問③「10年後、尾瀬で過ごした日々を思い出してあなたが言う一言は？」  
Nさん①刺身とステーキ食いたい②入山直後の雪の頃③あの頃は良かった  
Kさん①何もしない②キンコウカが満開の広沢・熊沢田代③これからもヨロシク！

Sさん①ウインドウショッピング、ランチはタコ焼き②10月1日の会津駒ヶ岳&中門岳③もう、いいや。  
Wさん①身体のメンテナンス②燧ヶ岳の御来光(9月)③あの頃は若かった

Hさん①温泉に入っただんびりしたい②9月中旬の草紅葉③また行って来るか！  
Iさん①荷物の整理をしなくちゃいけない②部分日食の写真が撮れた③あつという間に過ぎたナ

Oさん①一日中マンガ喫茶でダラダラしたい②ワタスゲが揺れる初夏の大江湿原③フクラハギの筋肉が恋しい〜！

南会津町の赤カブを食べたことはありますか？古くは戦国期の木地師（木地びき職人）、あるいは平安期の以仁王（後白河天皇の第2皇子）によって伝えられたと考えられている南会津町の赤カブは、甘酢漬けなどで食され、今では地域文化の一つとして位置付けられています。そんな赤カブを長年にわたり生産されてきた芳賀一郎さんにお話を伺いました。

**川**衣地区の赤カブ生産

「南会津町川衣地区では昔から赤カブ生産が盛んでした。私が子どもの頃は、食べ物が今ほど豊富にあるわけではありませんでしたので、冬の保存食にする貴重な作物でした。今は甘酢漬けにして食べますが、当時は、塩漬けにして食べていたので、塩辛い印象でした。そして、今は食べない葉っぱも乾物にして大切に食べていました」と芳賀さん。芳賀さんが赤カブの生産を始めたのは、昭和61年からだったそうです。

「赤カブは、お盆過ぎに種を蒔き、10月下旬に収穫します。収穫時期はとても忙しく、翌朝の出荷に間に合わせるために、収穫した赤カブを自

動車のライトで照らしながら夜まで洗っていたこともありました。収穫した赤カブは、以前は、会津若松に出荷していたこともありましたが、今は地元の加工会社に出荷し、甘酢漬けにし販売されています」



▲赤カブの甘酢漬け（カリカリとした食感とほんのりした甘みが絶妙）

**お**いしい赤カブを作りたい

「赤カブ生産で困っているのは、根こぶ病の問題です。根こぶ病は赤カブの実にこぶができる病気で、発生すると商品として出荷できなくなってしまう。根こぶ病の影響は大きく、今年、川衣地区で赤カブを生産しているのは、たった3軒しかありません」と、生産の苦勞を語る芳賀さん。

「根こぶ病に対する明確な対処法はありませんが、試行錯誤をしています。種まきは平時きをせず畝を作った時いたり、麦わらを使用した土壌作り、また、除草剤などは使用せず、雑草も生えっぱなしにしてあります。赤カブ生産には苦勞がありますが、だからこそ収穫時の喜びはひとときです。そして、赤カブを多くの方に食べてほしいという思いから、おいしい赤カブを作りたいと思っています」と、芳賀さんは赤カブ生産にかける思いを話してくれました。

**楽**しみな収穫期

芳賀さんが手塩にかけて育ててこられた赤カブもいよいよ収穫時期が近づいてきました。

「今年は雨が少なかったため、赤カブの出来映えが心配です。赤カブの収穫ときは、土から少し出ているカブの部分の太さや色を見極めて判断しています」と、今年初めての試し掘りをする芳賀さん。

「心配していたほど少雨の影響はないようでほっとしました。思っていたよりも収穫 때가近いようですね。収穫した赤カブは離れて暮らす子どもたちにも送っています。子どもたちも毎年赤カブが届くのを楽しみに待っています」と話す芳賀さんの笑顔には、赤カブを楽しみに待っている多くの人たちの笑顔が映っているようにでした。



▲試し掘りをした赤カブは収穫 때가近いことを芳賀さんに知らせた (H21.10.13撮影)



▲収穫期を楽しみに試し掘りをする芳賀さん

尾瀬ヶ原や尾瀬沼から離れ、清流と原生林に囲まれた渋沢温泉小屋は、知る人ぞ知る尾瀬の隠れ宿です。今年からこの山小屋が、長年に渡ってきりもりしてきた星登さんから、森聖さんへと受け継がれました。今回はシーズン終盤となった紅葉の渋沢を訪ね、森さんに最初のシーズンの感想やこれからの伺いました。

## 本

「私は昨年まで北アルプスの山小屋で働いていました。登山が好きで、会社員時代に自分の名前と同じ山名を持つ『聖岳』に登ってみたい、聖岳に近い場所で働きたいと思ったことがきっかけですかね」と、森さんは小春日和の暖かな日差しが照らす渋沢温泉小屋で話し始めてくれました。

「北アルプスでは10年間働きましたが、環境も体力的にも厳しい稜線上の山小屋ではあと10年くらいしか活動できないと感じていました。そんな時に知り合いから渋沢温泉小屋の事を聞き、まずは見に行こうと思いました。一昨年前に登さんとこの小屋に来たのが初めての尾瀬です」と素朴な人柄がにじみ出る話し方で、きっかけを話してくれました。

その時の印象を伺うと、「周囲は明るい森に包まれ、きれいな沢がすぐ横を流れていて良い場所でした。北アルプスと異なり、水も豊富で温泉

もある。四季を通じて自然の恵みを受け取るこのことができる本当の山深さがある事を感じました」と森さん。じつは自然よりも、もっと魅力的に感じたのが先代の星登・光子夫妻のたちふるまいだったそうです。「登さんが菅笠をかぶり、洗濯物を干している様子を見て、日本の原風景がここにあると感じました。余計な物は持ち込まず、ある物を大切に使うというシンプルな生活に惹きつけられました」



▲新たな山小屋主に引き継がれた渋沢温泉小屋

## 先

最初の尾瀬シーズンが終わった森さんに、その感想を伺いました。「1シーズンは先代の登さん光子さんを始め、たくさんの人に助けていただいた、無事に小屋閉めを迎え



▲森さんが「大切にしている」小屋の夕食

られ感謝しています。自分なりに考えた今シーズンの目標は、先代のやってきた事をまずはやってみることでした。北アルプスとは立地が違うので、そこでの経験を持ち込んで上手くいけません。山小屋を維持し、先代が大切にしていた料理と宿泊を最優先しています。また時間があれば登山道の維持にも出掛けています。山小屋への道は決して歩きやすいたとは言えませんが、この場所の雰囲気大切に、この感じが好きな方に来てもらえればと思います」と先代が残したものを大切にしたいという思いが感じられました。

## 長

く山小屋をやりたい 渋沢温泉小屋のこれからについて伺いました。「先代と同様に80代まで働きたいですね。長く山小屋をや



▲渋沢温泉小屋から徒歩40分で渋沢大滝に着く



小屋主の森さん

### 渋沢温泉小屋(檜枝岐村麓ヶ岳1)

- 問い合わせ先 090-1067-5525
- 宿泊料金 1泊2食 8,700円
- 営業期間 5月下旬～10月中旬

る秘訣は長生きすることですよ。余計な物を入れず、昔ながらの事を大切に、シンプルな生活と山小屋運営を続けたいですね。この場所の良さとともに、楽しさも伝えられたらと思います」と、この場所と山小屋を好きになった森さんならではの話が印象的でした。



## 至仏山登山道経年変化観察調査等を実施しました

至仏山の東面登山道のうち、過去の利用の影響などにより登山道が荒廃し、裸地になった箇所では、関係者により植生復元作業が実施されてきました。今回、至仏山関係者により、至仏山登山道経年変化観察調査が行われ、植生がどのくらい復元されてきたか把握するための定点撮影と、植生がどのくらいの範囲で広がってきているかを実測しました。それぞれの地点で、植生の回復状況は様々でした。



▲植生の回復状況を把握するための実測調査の様子

併せて、至仏山の登山道のうち、荒廃が著しい「東面登山道上部」「小至仏山南面」「オヤマ沢田代」の3区間については、今後至仏山環境調査専門委員会と登山道のあり方について総合的に検討しますので、この区間の登山道の変化も記録できるよう定点撮影を行いました。

また、植生保護・安全の観点より、残雪期の登山者の皆様へ利用に関する適切な情報提供を行うために、至仏山登山道に積雪深計を設置しました。来春、設置した積雪深計により積雪量を計測し、積雪が少ない場所で植生への踏み込みや沢への転落事故等が発生しないように利用者の皆様へお知らせする予定です。



▶積雪深計は鳩待峠～オヤマ沢田代間の3箇所に設置しました

今後は、これらの調査で収集した基礎的データを活用し、至仏山保全対策をさらに推進していきたいと考えています。

## 「尾瀬カードをご存知ですか？」

尾瀬カードは信販会社が当財団と提携し、発行されている「クレジットカード」の名称です。



オリエントコーポレーション



セントラルファイナンス

このカードを利用された場合、利用額の0.5%相当額がカード会社から当財団へ寄付され、尾瀬の自然を守るための活動に使われます。

加入ご希望の方は、各クレジット会社あるいは尾瀬保護財団「尾瀬カード」担当までお問い合わせください。

## 卓上式尾瀬フォトカレンダー-2010好評販売中!

販売価格 1冊500円

(友の会会員割引価格 1冊350円)



尾瀬の四季の魅力が凝縮されたカレンダー。尾瀬ファン必携です。

御購入方法

- ① 直接販売：尾瀬保護財団事務局（群馬県庁17F）へお越しください
- ② 通信販売：財団ホームページから  
または、財団事務局に電話・FAX等で依頼  
商品送料、代金払込手数料は御負担いただいております。  
代金は商品に同封の払込票（ゆうちょ銀行）でお支払いください。

# 尾瀬 ボランティア 情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

今シーズンも啓発活動や清掃活動等多くの方にご参加いただきありがとうございました。今回は9月19日(土)および10月17日(土)に実施した「ありがとう尾瀬清掃」および10月25日(日)に実施した「至仏山東面登山道整備(柵倒し)」の様子をお伝えします。

○9月19日(土) ありがとう尾瀬清掃 至仏山コース…風が強く寒い中での作業となりました。参加者6名



田代山・帝釈山コース…田代山監視員の菅家さんのお話を聞きながらの活動でした。参加者4名



○10月17日(土) ありがとう尾瀬清掃 尾瀬ヶ原コース…J.A.高崎ハム株式会社の方々に参加いただき、一緒に活動しました。参加者18名



尾瀬沼コース…沼一周と小淵沢田代に分かれて、福島側シーズン最後の清掃活動を行いました。参加者11名



○10月25日(日) 至仏山東面登山道整備  
寒いなか踏み込み防止のための柵とロープを外しました。来年も美しいお花が見られますように。参加者14名



## 第14回尾瀬ボランティア総会・交流会

尾瀬ボランティア総会と交流会を次のとおり開催します。ご参加希望

の方は、1月29日(金)までに「ボランティア番号」【氏名】「交流会の参加・不参加」をメール、FAX、電話等でお申し込みください。  
日時…平成22年2月13日(土)  
13時～16時  
場所…埼玉会館7B会議室  
日程…  
13時～14時 講演  
講師は現在調整中です。決まり次第ホームページでお知らせします。  
14時15分～16時  
ボランティア総会  
(議題) 平成21年度活動実績  
平成22年度活動計画(案)  
16時15分～17時30分 交流会

※交流会は埼玉会館2階特別食堂で開催します。なお、負担金として1,000円をご負担ください(当日いただきます。)





## 寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

■個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

■また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

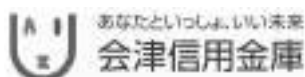
種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）に御来訪いただくか、財団に御連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095	新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	福島銀行本店営業部	普通	0590088		北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大東銀行福島支店	普通	1287138		大光銀行新潟支店	普通	0837334
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428				
	東和銀行本店営業部	普通	0975531				

### 特別協賛寄付者の御紹介

五十音順、敬称略



**会津信用金庫** 定期積金「エコロジー積金「尾瀬」」より100万円を御寄付いただきました。(2009年3月13日)  
寄付者からのメッセージ：契約額に応じて寄付を行うエコロジー積金「尾瀬」を発売致しました所、多くのお客様にご賛同を頂き誠にありがとうございました。今回の寄付金が尾瀬の自然環境保護に有効に活用されることを期待しております。会津信用金庫はこれからもお客様と共に自然環境保護と地域社会発展に貢献してまいります。



**アサヒビール株式会社群馬支社** 平成21年3月下旬から4月下旬にかけて製造されたアサヒスーパードライ350ml缶及び500ml缶の群馬県販売分の1缶につき1円、314万円余りを御寄付いただきました。(2009年6月10日)  
寄付者からのメッセージ：アサヒビール株式会社群馬支社は、尾瀬の環境保全活動にお役立ていただくため、本年春にアサヒビールスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト<第1弾>」を実施、売上げの一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。尾瀬の貴重な自然環境を保全・復元する活動や来訪者への啓蒙活動等にお役立ていただけたら幸いです。



**株式会社群馬銀行** 尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として117万円余りを御寄付いただきました(2009年6月8日)。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。  
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客様の善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客様に深く感謝いたします。



**DIAMアセットマネジメント株式会社** 尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として345万円余りを御寄付いただきました(2009年6月8日)。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。





## 第四銀行

**株式会社第四銀行** 尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として76万円余りを御寄付いただきました（2009年7月10日）。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



## 東邦銀行

**株式会社東邦銀行** 尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として120万円余りを御寄付いただきました（2009年6月19日）。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。



**株式会社とりせん** 株式会社とりせんの創立60周年を記念して社員の皆さまに募っていただいた募金105万円余りを御寄付いただきました。（2009年9月11日）  
寄付者からのメッセージ：会社創立六十周年記念事業の一環として、尾瀬の自然保護に役立ててもらおうと社員から募金を募り寄付をさせていただきました。尾瀬は当社の出店地域でもある群馬県・栃木県・福島県にまたがっており、我々の気持ちが貴重な自然の保護に役立てていただけることを期待します。



## 新潟証券株式会社

**新潟証券株式会社** 尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として29万円余りを御寄付いただきました（2009年7月10日）。一昨年、昨年に続き、今回が3回目の御寄付となります。  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

### 協賛寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

**尾瀬山小屋組合** 平成10年より尾瀬山小屋組合加盟の山小屋・休憩所に募金箱を設置し、そこに入れられた募金をシーズン終了後に取りまとめて御寄付いただいております。今回は24万円余りを御寄付いただき、累計額は485万円余となりました。（2008年12月12日）

**群馬県ホンダ会** 群馬県下ホンダカーズ・ディーラー25社からなる群馬県ホンダ会様より、36万2千円の御寄付をいただきました（2008年10月31日）。これは、「SaveOze」と名前の付けられたリボンマグネット（マグネット素材のステッカーで車等に貼り付ける）を群馬県下の販売店で1年間販売するにあたって、その売上金の一部を前もって御寄付いただいたものです。

**社団法人日本損害保険代理業協会** 地球環境保護活動の一環として設立されたグリーン基金より尾瀬の自然保護の支援として平成20年度から5年間、毎年20万円の御寄付をいただくことになりました。（2008年7月28日）

**株式会社福島銀行** 尾瀬の自然環境保護のため、35万円を御寄付いただきました。これは、販売されている工コ定期のお利息の3%に相当する金額を御寄付いただいたものです。（2009年5月28日）

### その他寄付者の御紹介

五十音順、敬称略

公孫会北魚支部、株式会社ニチネン、日本ボーイスカウト群馬県連盟

## イベント情報◆◆◆

### 第11回尾瀬フォーラム

- 開催日 平成21年12月18日（金）
- 時 間 午後2時～午後4時30分
- 会 場 高崎シティギャラリー・コアホール  
（群馬県高崎市高松町35-1）
- テーマ “美しい至仏山を未来に残すために  
～至仏山保全対策を考える～”
- 内 容
  - ①講演 「名峰至仏山 その特異性と美しさ」  
小泉武栄 氏（東京学芸大学教授）
  - ②会場との意見交換会  
※事前質問を財団ホームページ上で受け付けています。
- 参加費 無料
- その他 申込不要、直接会場へお越しください

### 第14回NHK「わたしの尾瀬」写真展

#### 【高崎展】

- 開催期間 平成21年12月18日（金）～23日（水）  
午前10時～午後6時  
（23日は午後4時まで）
- 会 場 高崎シティギャラリー  
（群馬県高崎市高松町35-1）

#### 【前橋展】

- 開催期間 平成22年1月15日（金）～19日（火）  
午前9時～午後4時  
（15日は午後1時から、19日は正午まで）
- 会 場 群馬県庁県民ホール  
（群馬県前橋市大手町1-1-1）

※高崎展及び前橋展いずれも入場無料  
※前橋展終了後、福島県内や新潟県内等で写真展を順次開催予定

## 編集後記

尾瀬はシーズンオフになり、尾瀬山の鼻ビジターセンターと尾瀬沼ビジターセンターのスタッフも下山して事務局勤務に戻りました。シーズンオフの事務局はスタッフが多く活気があります！これからは、今シーズンの総括を行いながら、来シーズンの準備がはじまります。来シーズンも尾瀬で皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。（小）



## 尾瀬の三二絶景 ⑦



## 一ザゼンソウ

(花期：5月上旬～6月上旬)

ザゼンソウは、案内していただかないと発見できない地味な植物だが、ユニークな花の姿に人気がある。紫褐色の苞がまだ、とんがり帽子形でわずかに隙間ができたとき、中では雌しべが花粉を待つ状態になっている。気温が0度に近いときでも、その苞の中は、10度以上に保たれている。この温かさ、臭いでハエの仲間を誘い花粉を運ばせるのだという。たぶん晴れた日に、ハエの仲間が来るのだと思うが、私にはまだ解けない謎のままだ。(写真は片品村で)

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



## 『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。



年会費	個人会員	1口	2,000円
	○ユース会員 (3月31日現在満22歳以下)	1口	1,500円
	○家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口	1,500円
	○賛助会員 (団体・法人)	1口	10,000円

## ☆尾瀬内山小屋の宿泊割引の廃止について

長年に渡り、尾瀬山小屋組合様、尾瀬戸倉旅館組合様、尾瀬桧枝岐旅館組合様、民宿組合様のご協力により、ご好評頂いてきました尾瀬および周辺宿泊割引ですが、今年度より尾瀬山小屋組合様加盟の山小屋につきまして宿泊割引が無くなりました。なお、尾瀬戸倉、桧枝岐村の周辺宿泊につきましては、引き続き割引を行っていただけます。

## ☆友の会の会員期間の変更について

昨年度までは、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる会員期間で皆様にご加入いただいておりますが、平成21年度より加入あるいは更新から1年単位の会員期間とし、尾瀬のシーズンをフルに楽しんでいただけるようになりました。一年を通じて加入の受け付けを行っていますので、皆様のご加入を心よりお待ちしております。

## ☆メールクラブのご案内について

「友の会」会員を対象に、登録をいただいた方に尾瀬のいろいろな情報をメールにてお送りする「めるクラブ」を行っています。是非、ご利用ください！（登録は財団ホームページから）

○その他、「友の会」の詳細及びお申し込み方法等は財団ホームページをご覧ください。財団事務局までお問い合わせください。